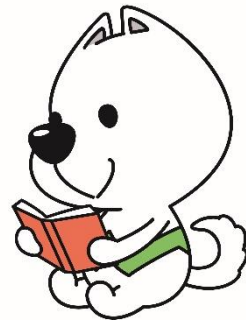


令和4年度 読書推進フォーラム

「ちょっと本でも読んでみようかな」のために

報告書



## 概要

### 令和4年度 読書推進フォーラム

#### 1 テーマ

「ちょっと本でも読んでみようかな」のために

#### 2 趣旨

「本との出会い」をキーワードに、本に手を伸ばしたくなるしかけについて考え、気軽に本を読む人を増やすためのきっかけとする。

また、本との出会いをとおして生まれる人との交流が、子供を含めた地域住民の学びや生きがいにつながることを知り、読書に関わる活動に取り組む人の後押しになる機会をつくる。

#### 3 主催

和歌山県教育委員会

#### 4 対象

どなたでも

#### 5 日時及び会場

日時 令和5年1月29日(日) 13:30~16:30

会場 和歌山県民文化会館 大ホール

〒640-8269 和歌山市小松原通一丁目1番地 (TEL: 073-436-1331)

#### 6 参加者数 544名

#### 7 日程

- (1) 講演 「本は優しい」  
講師 言語学者、山梨県立図書館長 金田一 秀穂 氏
- (2) 公開座談会 「本に手を伸ばしたくなるしかけ」  
ファシリテーター フリーアナウンサー 笠野 衣美 氏  
事例報告 本屋プラグ 嶋田 詔太 氏  
登壇者 イラストレーター、絵本作家 すけのあずさ 氏  
隅田中学校区共育コミュニティコーディネーター 土田 淳子 氏

13:00	13:30	13:40	15:00	15:10	15:30	16:25	16:30
受付	開会	講演	休憩	事例報告	公開座談会	閉会	

## 開会あいさつ

和歌山県教育委員会 教育企画監 清水 博行



皆さんこんにちは。寒さ厳しい中にも関わらず、読書推進フォーラムに、多くの方々にご参加いただき、本当にありがとうございます。読書への思いを共にする方々と出会えて、嬉しさと勇気を感じています。

一冊の本との何気ない出会いが、幸せな気分にしてくれたり、嫌な気分を紛らわせてくれたり、その後の生き方に大きな影響を与えてくれることがあります。読書の意義や大切さについては、誰もが認めるところだと思います。しかし、良いものだと言われると、かえって読書の敷居が高く感じてしまうこともあります。また、忙しさを感じる日々のなかで、気軽に本を手にしたり、読むことから遠ざかっていたりすることもあると思います。

私たちは、赤ちゃんから児童生徒、大人、老人に至るまで、年齢に関係なく、誰もが読書を楽しむことで、県民一人一人が豊かな気持ちになり、互いに支えあい、協力しあえる社会へつながっていくと考えています。そこで、和歌山県の読書文化を醸成しようという目標を立てて、取り組んでいます。

具体的には、子供から大人まで、本の世界を身近に感じる機会や読書の素晴らしさを再認識する機会を設けることと、また、読書に関わる様々な活動に取り組んでおられる方々にお力添えする等の施策を展開しています。

本日はその一環として、「本との出会い」をキーワードとして、フォーラムを企画しました。講師には、言葉や日本語学の専門家、テレビ出演や多数の著書で有名な、金田一秀穂さんにお越しいただきました。

この後、「本は優しい」という演題で、読書が言葉の力やコミュニケーションの力、ひいてはその人の活力とどう関わるかについて、ご講演いただきます。

さらに、さまざまな形で本に携わる方々に、思わず「本に手を伸ばしたくなるしかけ」について話し合ってください、公開座談会を行います。

中高生の皆さんの中には、学校の先生の勧めで参加されている人もいるかもしれませんが、今日のフォーラムがきっかけとなって、部活や学習への取り組み方が変わったり、進路や人生にまで影響を与えたりするかもしれません。きっかけを見逃さないという気持ちや期待感で、参加してくれたらと思います。

本日のフォーラムが、皆さんにとって実り多きものとなることを祈念して、挨拶といたします。それでは始まります。よろしく申し上げます。

## 講演

# 「本は優しい」

言語学者、山梨県立図書館長 金田一 秀穂 氏

### 【はじめに】

- 和歌山は何度目か
  - ・田辺、新宮はあったが、和歌山市は初めて
  - ・案外寒い
  - ・甲府にある山梨県立図書館で3年前から館長

### 【嫌われ者の「読書感想文」】

- 小中学校で「やらされる」
- 国語の先生にも嫌われる
  - ・宿題に出すのに「好きじゃない」!?
- 入院していた小学生時代
  - ・病室での娯楽はラジオと本
  - ・「ろくでもない本」をたくさん持ってくる父
- 書けない「読書感想文」
  - ・読書量は豊富でも、「おもしろい」と思えない本については何も書けない
  - ・愛読書は、地図帳・汽車の時刻表・旅行案内書
  - いわゆる「読書」「推薦図書」がつまらないと感じた



### 【国語教育への違和感】

- 金田一家の謎ルール
  - ・中学校の最初の担任は国語の先生
  - ただ、「金田一」だからといって国語ができるとは限らない
- 「あなたの考えを書きなさい」の落とし穴
  - ・「私の考え」に点数がつくのはおかしいのでは? という娘の疑問
  - ・「担当の先生がどう考えるか」を書くと良い点がもらえる
  - 学校の成績が良い=教師のコピーを上手にできる
- 「教師の言うことに従わせる教育」になっていないか
  - ・漢字を20回書く必要はある?

### 【読書感想文をおもしろがる】

- 中学生になると小説や物語の読書感想文もおもしろいと思うようになった
- 動物図鑑・時刻表・地図帳で書いてみてもいい
  - ・2冊買って見比べ、違いを調べると立派な読書感想文になる
  - ・地図が北から始まる／南から始まる、日本から始まる／外国から始まる
  - ・動物図鑑の最初のページは何か、出版社で何が違うか  
→「紙の本」が役に立つ

### 【言葉をおもしろがる】

- 「紙の」本、「紙の」新聞
  - ・「紙ではない」本や新聞がインターネット上にある
- 新しい言葉が生まれることで、増える説明
  - ・「回る」寿司屋と「回らない」寿司屋
  - ・対面授業とリモート授業
  - ・有観客ライブと無観客ライブ
- 世の中にある「紙でできた、本の形をした本」はすごく楽しい
  - ・電子辞書が便利なのは間違いないが、紙の辞書は遊べる  
→日本語は「世界」を中心に、「愛」と「腕力」でバランスをとっている  
一番多いのは「し」で始まる言葉、一番少ないのは「る」で始まる言葉
  - ・ページの量がひと目でわかる



### 【言葉の働きとは】

- 本を読むことによって何ができるようになるか
  - ・言葉が増える、いろいろな言葉を知ることができる
- 言葉は、「考える手段」であり、「感じる道具」
  - ・コミュニケーションは言葉だけでない部分も大きい
  - ・「自分の気持ちを相手に伝える」だけではない
  - ・「自分の気持ちや感情を形にできる」  
→言いようのない頭の中を、はっきりさせることができる
- 「お刺身」と「死んだ魚の生の肉」
  - ・言葉ひとつで、感じ方が変わる
  - ・言葉の恐ろしさであり、重要な働き  
→言葉は「感じ方」「考え方」を決定する  
味覚などの感覚を言葉が変えている  
例) 感染症／伝染病、社会に出る／入る、今日のイベントに出る／入る

- 日本語（母語）で感じ、日本語で考える
  - ・読書をすることで、様々な感じ方・考え方を知る
  - ・世界を見ようと思うとき、言葉を知ることによって豊かに見ることができる  
→自分の言葉だけで、世界はなかなか広がらない  
第三者（外）の言葉を知ることによって、広い世界の考え方・感じ方がわかる

### 【本物にふれる】

- 心を豊かにするために
  - ・良い音楽、絵、演劇を見たい
  - ・実物、本物を見るためにはお金がかかる
- 本にお金はかからない
  - ・日本語はお金を出して勉強したものではない
  - ・日本語の本は図書館で読める  
→最高の日本語が手に入る

### 【言葉は残る、漢字は残る】

- 松尾芭蕉につながる杜甫・孔子
  - ・「夏草や兵（つわもの）どもが夢のあと」（松尾芭蕉）
  - ・「国破れて山河在り、城春にして草木深し」（杜甫）  
→城も、人も、自然も変わってしまうが、言葉だけは変わらない  
3,000年前の人、もっと前の人の考えや言葉がそのまま残っている
- 「大器晩成」が実は…
  - ・大器「免」成だった  
→「大きな器は完成することがない」  
例）葛飾北斎、ミケランジェロ「ロンダニーニのピエタ」
- 「四十にして惑わず（不惑）」も実は…
  - ・四十にして不「或（域）」だった  
→「40歳ごろから、枠（域）を外して、他のことをやってみるといい」



### 【本は優しい】

- 本は怒らない
  - ・人に教わるのは、少し怖い
  - ・同じところを何度読んでも、本は怒らない
- 難しい本に挑戦してみてもらいたい
  - ・わからなければ、とぼして読んでもいい

- ・おもしろいところは何度も読むといい
- ・つまらないと思ったらやめていい
- ・とにかく読み始めてみたらいい  
→本は「待ってくれている」  
成長することで「わかる」ようになる

### 【努力は無駄!?!】

- 「おもしろい」と思うことで人間は進歩する
  - ・おもしろいと思うことを一生懸命やると、絶対に身につく、役に立つ  
→いやだな、と思いながらやっても役に立たない
  - ・GRIT (グリット・持続する力)  
→「諦めない」ではなく、「諦められない」  
例) 卓球の福原愛選手、イチロー選手、白鳳関、金田一京助氏
- 病気に対する努力は報われない
  - ・「努力をしないから駄目だ」とは言いたくない
  - ・報われない努力もある  
→もうちょっと優しい世の中であってほしい

### 【図書館の役割】

- 図書館の新しい役割「コミュニティづくり」
  - ・山梨県立図書館は「屋根のある広場」
  - ・リクエストに応えやすいのは、市立図書館
- 一番重要な図書館の役割は「資料の蓄積」
  - ・身近にない本や資料が、県立図書館にはある
  - ・古い新聞を読みたい、と思ったときに見つけることができる
- 図書館と本屋の違い
  - ・図書館の本や資料は分類されている
  - ・本屋には、いろいろな本が目の前に並ぶ  
→紙の国語辞典のように、「雑多」にある  
「こんな本があるのか」という出会いがある
  - ・まちの本屋さんで、そのまちの文化が見える
  - ・「本屋が減る=文化のレベルが落ちる」と感じて悲しい

### 【読書のコツ】

- 深みにはまるための、道標を見つけること

- ・「信用できる」と思う人の本を、早い時期に見つける
- ・天才みたいな人は、世の中にいる  
例) 井筒俊彦、中井久夫、林達夫、鶴見俊輔
- 自分が本当に無知だということがわかる
  - ・でも、現実のほうがもっとおもしろい、ということもわかる
- 1冊から枝分かれしていく読書
  - ・ひとつの道標から、本の世界に入っていく

### 【本を読むことをとおして「自分の考え」をつくる】

- 「違うよなあ」から始める
  - ・素直すぎる若者
  - ・大人の言うこと、ニュースの言葉を鵜呑みにしない
- 流されない、自分の考えをつくるために
  - ・本を読んで、いろいろな人の考え方を知る
  - ・古いものを、きちっと読む
  - ・自分で考えて自分で進むことで、全体に流されない人に

### 【「美しい日本語」を考える】

- 美しい日本語をつかう人：谷川俊太郎さん
  - ・自分に正直な言葉、自分に嘘をつかない言葉をつかうこと
  - ・本当に自分が考えている言葉か、ただの借り物の言葉か  
→本当に自分の言葉になっているかどうかを、一生懸命考える  
この世界で楽しく、豊かに、美しく暮らせる
- 本当のコミュニケーション能力は、「本当の自分の言葉」をつかえるかどうか
  - ・自分に正直で、誠実で、言いたいことなのかどうかを問いたです  
→そんな言葉は、人に響く
- 「自分で考える」ことを自分で考えてみる
  - ・これからの若い人に期待している





## 事例報告・公開座談会

### 「本に手を伸ばしたくなるしかけ」

ファシリテーター	笠野 衣美 氏
事例報告	嶋田 詔太 氏
登壇者	すけのあずさ 氏
	土田 淳子 氏

#### 1. 事例報告

##### (1) 「ちょっと本でも読んでみようかな」

- 「ちょっと」とは？
  - ・ 一部だけでも、あらすじだけでも、表紙だけでも
  - ・ 読みたいものを、読みたいように
  - ・ 固定観念を捨てる
    - 本は「最初から最後まで読み切らなければいけない」のか？
    - 完結していない連載作品でも「読んでいる」と言っている
- 本のもつ「良い」イメージ
  - ・ おしゃれなもの、写真映えするもの
  - ・ 知的なイメージの先、「手に取って読む」まで進んでほしい
- 本はおもしろい
  - ・ 美術作品は学芸員の解説を聞くと、世界が広がる
  - ・ 本も同様に、おもしろさを教えてもらおうと、世界が広がるはず



##### (2) 本屋プラグでの取組

- 本のおもしろさを伝える活動
  - ・ Podcast 配信
    - なぜおもしろいのか、どうおもしろいのか、ポイントを探して話す
- 現代にも通じる有吉佐和子作品
  - ・ 出版された当時以上に、今の時代に合うような気がする
    - 1人でも「おもしろそうだな」と思ってもらえると嬉しい
- 本のおもしろさをどう伝えるか
  - ・ 中国の古典にも、おもしろい設定で読める作品がある
  - ・ おもしろい本は、司書さんが知っている
    - おもしろいポイントをどう広め、知らせていくか

## 2. 公開座談会

### (1) 自己紹介と講演の感想



#### 【すけの氏】

- 絵本作家、イラストレーターとして活動中
  - ・ 和歌山市雑賀崎が舞台の絵本『うみのハナ』（BL 出版）を出版
  - ・ 2 作目の出版も予定
- 正直な気持ちを言葉にする難しさ
  - ・ 金田一先生ご自身が、素直に正直な言葉で話している  
→すっと腑に落ちる話
  - ・ 自分の気持ちをそのまま話すように



#### 【土田氏】

- 共育コミュニティコーディネーターとして活動中
  - ・ 「地域の子供は、学校・家庭・地域全体で育てよう」という取組  
→中学校区で、人と人が出会い、世界を広げることを目的に活動  
地域が、大人にとっても子供にとっても「思い出ができるふるさと」に
  - ・ 「すみっしー（すだ中学校、みんなしり合いになろう）プロジェクト」
  - ・ 活動の柱のひとつが、読書活動推進  
→人と出会って世界を広げる、本と出会って世界が広がる  
感動をみんなで味わいたい

### (2) 「本との出会い」

#### 【嶋田氏】

- なぜ本を読むようになったか
  - ・ きっかけとなった作品や出会いはない
  - ・ 音楽や映画など、好きなものの情報を得る手段が本しかなかった
  - ・ 和歌山から外の世界、外国の文化に広がる入口  
→情報を得るメディアとしての本

## 【すけの氏】

- いま振り返って思う「人生を変えた本」
  - ・両親の本の中から選んだ『エーミールと探偵たち』（エーリヒ・ケストナー著）  
→挿絵に惹かれ、初めて1冊読み切った  
「本っておもしろいかも」とぼんやり思ったことを憶えている
  - ・本を選ぶ基準のひとつが挿絵

## 【土田氏】

- 憧れから入った読書
  - ・読書が苦手で「とにかく初めの50ページを」
  - ・憧れから読み進めた『悲しみよこんにちは』（フランソワーズ・サガン著）
  - ・何冊か読んでいくことで自信を持てるように
- 本の世界に入り込む幸せ
  - ・読んだ本について誰かと話し合う楽しさ
  - ・図書ボランティアの活動をとおした人との出会い  
→図書ボランティア同士の交流  
司書が教えてくれる「本のおもしろさ」



## 【笠野氏】



- 3人の共通性
  - ・「本によって世界を広げる」という実感
  - ・「おもしろいかもしれない本」との出会い  
→本との出会いをつくる方法とは？

## (3) 「本に手を伸ばしたくなるしかけ」

## 【すけの氏】

- 「飾る」「買う」ことが入口に
  - ・画集のような雰囲気を持つ絵本
  - ・部屋にお気に入りの絵本が1冊あるだけで、場が華やぐ  
→インテリアの要素が入口でも良い
  - ・表紙を気に入って買うだけでも良い
- 自分自身で本屋さんに足を運ぶこと
  - ・自分でお金を出して買うことで、大切に扱える

## 【嶋田氏】

- 本当に自分の好きな本、生涯を変える1冊と出会うには
  - ・ 今はまだ出会っていないだけかもしれない
  - ・ 全国の本屋が考えて答えが見つからないテーマ
- 文化はつながっていく
  - ・ 戦隊ヒーローのストーリーの背景にある『銀河鉄道の夜』（宮沢賢治）
  - ・ 自分の「好きなもの」から広がる世界  
例) ヒップホップ→ストリートカルチャー、ファッション、奴隷制、歴史へ

## 【笠野氏】

- 道標としての「好きなもの」
  - ・好きなものから世界を広げていく
  - ・興味の先を調べてみると、本を使うという手がある

## 【土田氏】

- 本を手にする機会をつくる
  - ・ 地域の本好き、図書ボランティア、学校の先生からの本の紹介  
→ SNS、共育コミュニティだより、図書ボランティアからのお薦め  
人と人とのつながりをきっかけに、本に手を伸ばす
  - ・ すぐそばに本がある環境が大切  
→ 学校での新刊購入、ボランティアによる学級文庫の入れ替え

## 【すけの氏】

- 本をつくる立場となって
  - ・ 5年かけてできた1冊
  - ・ 雑賀崎のまち、風景、床屋、風習、すべてを描くための手段が絵本
  - ・ 1冊にかかる時間や、編集者・出版社・本屋などの関わる人の手  
→ 本は「安い」と感じる

## 【笠野氏】

- いろいろな楽しみ方ができる本
  - ・ 労力を費やしてつくられた本が簡単に手に届く
  - ・ 何度読んでも怒られない  
→ 知識が深まり、理解力も変わる「読めば読むほどお得なもの」

#### (4) 「本をおもしろがる」ために

##### 【土田氏】

- オンライン読書会
  - ・ ボランティア仲間からの紹介
  - ・ 月に1回、1冊の本を数ページずつ読み進める
  - ・ 地域、仕事、年齢もバラバラな参加者と話すことで、その人の向こう側が見える  
→見方・考え方が広がるのが楽しい
  - ・ バラバラに話していても、最後は本に戻ってくる  
→同じものについて語り合うのがとても良い

##### 【嶋田氏】

- 本のおもしろさを提供する努力
  - ・ どこがどうおもしろいか、を伝えること
- 受け取り側の「おもしろがれる」才能
  - ・ 着眼点を変えると「おもしろがれる」  
例) パフェにはストーリーがある
  - ・ 社会的なメッセージ、フェミニズム視点、童話の影響など、いろいろな角度で見る  
→偏見を捨て、批評性を持って作品を見ると、世界が一気に広がる

##### 【すけの氏】

- 「読んじゃいけないときに読む本が一番おもしろい」
  - ・ 締め切り前、試験前の現実逃避
  - ・ 時間がない、と思っけていても、おもしろい本に没頭してしまう
- 時間が経っても変わらずに待っていてくれる、懐の深い本
  - ・ インターネット上の情報はスピーディーに更新されていく
  - ・ 本は、いつ開き、どれだけ読むかも自由  
→隙間時間でも楽しめるのが魅力

## (5) 参加者に伝えたいこと

### 【嶋田氏】

- まちの本屋に出かけてみてほしい
  - ・ 本との出会いを楽しんでほしい
  - ・ 「おもしろいもの」の選択肢のひとつに本屋がある

### 【すけの氏】

- まずは1ページを読んでみてほしい
  - ・ 忙しい人ほど、少しの時間で楽しめる

### 【土田氏】

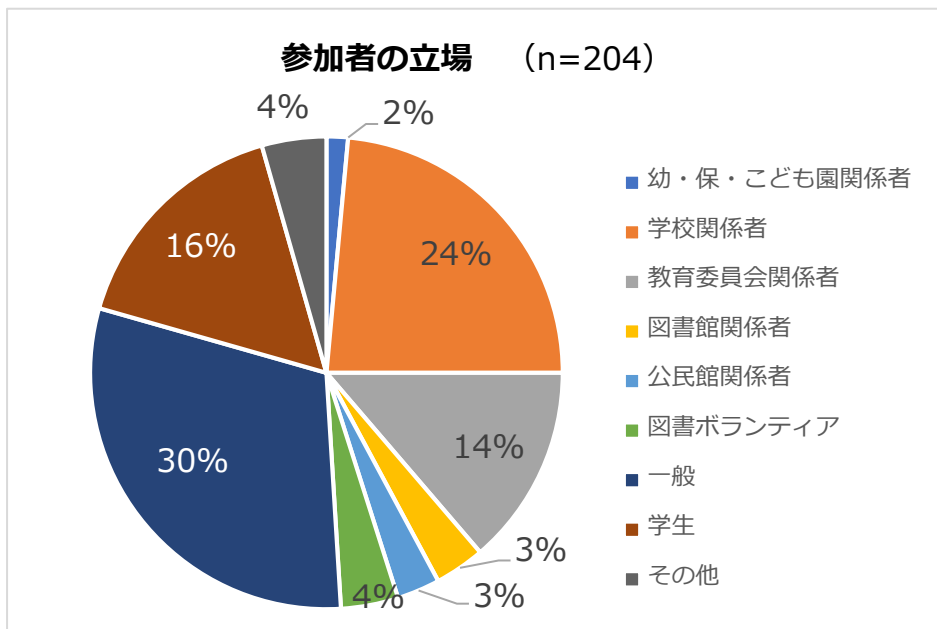
- 大切にしたいもの
  - ・ 本との出会いをきっかけにした人とのつながり
  - ・ 言葉を大切にできる自分でありたい

### 【笠野氏】

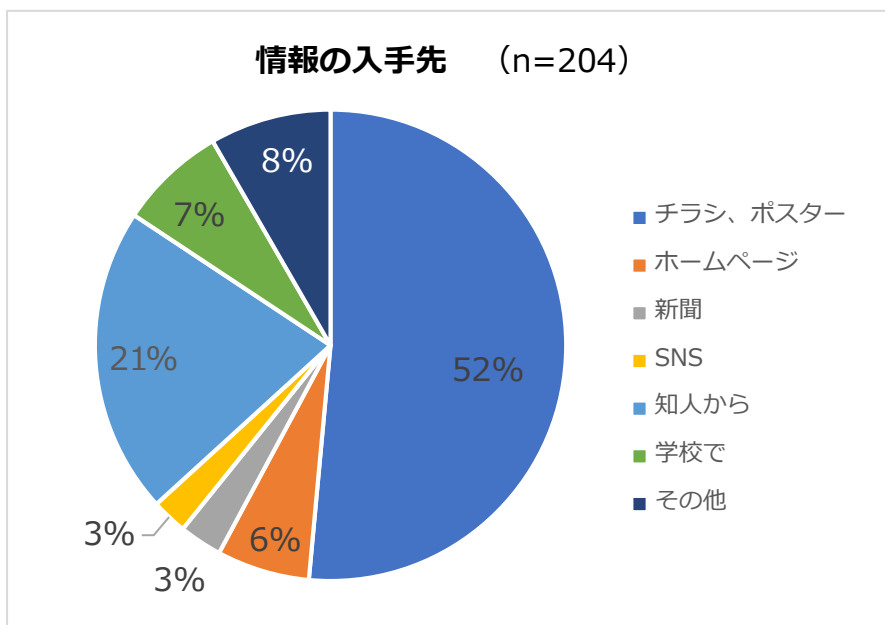
- 本に手を伸ばすために必要な「実物の本」
  - ・ 自分なりに頭の中を通して言葉を読む作業  
→頭の中で「自分の言葉」になっていく
- 「読んでみよう」と思う環境をつくる
  - ・ 心を動かしたこと、感動が次の本につながる
  - ・ 人と語り合うことが次の「読みたい」につながる



1 本日のフォーラムにはどのような立場で参加されましたか。

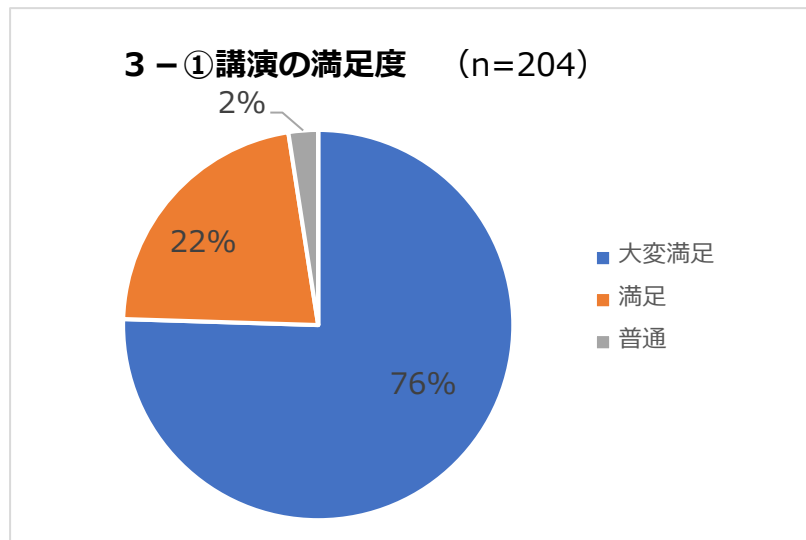


2 本日のフォーラムをどのようにして知りましたか。



### 3 本日のフォーラムの感想をお聞かせください。

#### ① 講演



#### 【本との出会い「本は優しい」「本は怒らない」】

- 本や読書について、色々な考え方を聴けたと感じた。読書のハードルが下がった。(学校関係者)
- 本は待ってくれるという話をしてくださり、本を読むハードルが下がった。(学生)
- 易しい本だけではなく、難しくてもおもしろい本を見つけにいけるような出会いを、まず自分自身が増やしていきたい。(学校関係者)
- お話を楽しく拝聴した。私もアナログ人間なので「紙の本」を読むことに大賛成。辞書の話は大変興味深かった。先生が薦めてくださったポイント「古典を読む」「海外に行くと人と話す」「いろいろな人の考えを知る」読書を今後の人生で実践したい。(学校関係者)
- 金田一先生のユーモアを交えた語り口で楽しく聞いた。教員の立場からは耳の痛い点もあったが、「本は怒らない」という言葉は心に残った。(学校関係者)
- 自分に合った本(人)を探してみたいと思う。(学校関係者)
- 勉強になるお話が随所にあったが、本を読んでみようと思える言葉をいただけるとさらにありがたいと感じる。(学校関係者)
- 金田一先生のお人柄に惹かれた。難しい言葉を使わずに本を薦めていただき、無理強いしないので余計に読みたくなる。少し難しい今まで読んでこなかった本に挑戦してみようと思う。(教育委員会関係者)
- おもしろいと思える分野の、おもしろいと思うところを読むくらいの身近さ、気楽さが良いのだとわかった。本の世界を、子供たちにも自分にも、もう一歩入り込んでいけるものにしたい。(教育委員会関係者)
- 本は読み切らないといけないものと思っていて、読み始めることに躊躇してしまう。先生のお話から、途中で止めても怒らないという言葉に、ほっとした。(教育委員会関係者)
- 「ちょっと読んでみようかな」と思う講演だった。本は優しいと思った。本の良さがすごく伝わり、誰かに話したくなった。また、教職に就く身でありながら、今まで読んでこなかった本がたくさんあるので、ちょっと読んでみようと思う。(教育委員会関係者)
- 『本は優しい』というタイトルから想像もしない内容で、大変興味深かった。「～じゃないといけない」とらわれて読書をしてきたように思う。もう若くないので、これからは気楽に気軽にいろんな読書を楽しみたいと思う。後押しをしてくださり、ありがたかった。(一般)
- 人生に一つの本を探そうと思った。(学生)
- 少しも飽きる時間がなく、聞き入ってしまった。普段本を読まない時間が長い私でも、少し読んでみようかなと思えた。日本語で感じることや大器晩成についてのことが印象に残っている。(学生)



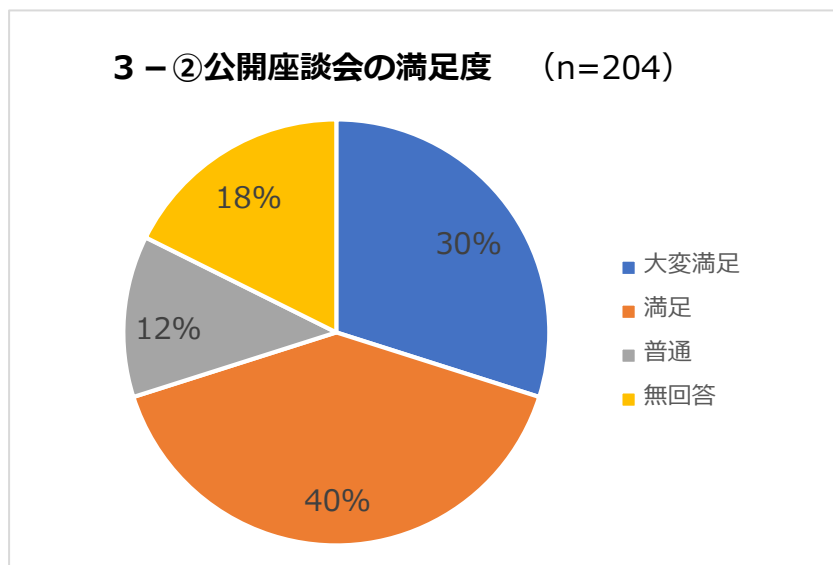
## 【「自分の考え」「自分の言葉」を養う】

- 金田一先生の正直なありのままのお話、心に響いた。（幼・保・こども園関係者）
- 若者や子供たちが大変素直になっていることは、学校で子供と接して感じている。それが、これからの日本にとって憂うべきことだと改めて気づいた。自分も含めて、自分に正直な言葉を言えるようにしていきたい。（学校関係者）
- 「ニュースで言っていることを信用するのではなく、まず疑うこと」が大事。今の子供は素直！本当にそう思う。もっとたくさんの人に聴いてもらいたかった。（学校関係者）
- 言葉の持つ意味、言葉の大切さを改めて感じた。言葉の働き、コミュニケーション、自分で考えるといった話も大変興味深く聞かせていただいた。（学校関係者）
- 自分の読書の指針になった。日本語・言葉・読書の重要さ、長所などもなるほどと思った。現在の本を取り巻く環境や読書や考え方の傾向についても教えていただき、今後、生徒やまわりの人に自分の言葉で伝えていきたい。（学校関係者）
- 無理なく読書に取り組みそうなことを聞かせてもらった。読書を通して、自分の意見を持つことが大切だと感じた。（学校関係者）
- 言葉が豊かだと世界が豊かになる。言葉を耕すには、本が良い。そのことが理解できた。（学校関係者）
- 日本で同じ言葉を使っている、お互いの感じ方・考え方でその言葉の意味のとらえ方が変わってしまうことを「言葉で感じ考える」という先生の言葉で痛感した。（学校関係者）
- 言葉を知ることは、自分の考えを作ること。そのために、自分とは今まで関係のなかった世界の言葉にふれることの大切さがよくわかった。（学校関係者）
- 「言葉によって、人間がつくられる」というのは本当にそのとおりだと思った。（学校関係者）
- 「言葉は考えをまとめ、表現する道具である」という話があったが、その言葉を知るためのリソースが本なのだ改めて思った。（教育委員会関係者）
- 言葉が何のためにあるのか。伝えるためだけでなく、感じることを、考えることを、その気持ちを形にできるのが言葉であり、読書することでその世界が広がる。いわば、「自分の考えをつくること＝自分をつくるための読書がある」ということに大変納得できた。（教育委員会関係者）
- 「言葉」は自分の考えをつくるためのツールで、そのための読書、というお話が印象的だった。
- なぜ本を読むのか、「言葉が増えると、考える手段、感じたこと、その気持ちを形にでき、自分の頭の中をはっきりさせることにつながる」と聞いて、確かにそうだとすっきりした。（教育委員会関係者）
- 言葉のもつ役割や、努力よりも興味を持って好きなことに取り組む大切さを知ることができた。本はそういう言葉や考える力を身につけたり、世界を広げたりできるので、これから少しずつ読書量を増やしていきたい。（教育委員会関係者）
- 「自分でよく考え、誠実でうそ偽りのない言葉をつかうこと」が心に残った。（教育委員会関係者）
- 自分の考え、自分だけの言葉、自分に素直な心情を大切にしていきたいと思う。それが自分を生かす、他人も生かすことだと思った。（図書ボランティア・読書ボランティア）
- 本を通して自分で考えること。そのためには、言葉を知ることが大事なのだととても素直に腑に落ちる体験ができた。今後この国で生きていくうえで、それがどれだけ必要か納得できた。（一般）
- 言葉の価値、言葉のもつ役割について考えさせてもらった。表現ツールとしての言葉をたくさんストックできるように、気軽に付き合っても本は怒らないので、気軽に本を手に取りたいと思った。（一般）
- 言葉一つでも感じ方、考え方が違うというお話がすごく心に残った。また、自分とは違う考えを持つ人の思いを聞いて、いろいろ考えることができた。（学生）
- 学生の立場でもわかるようなお話だった。「若者は素直すぎる」という言葉に痛感。自分で考える人間になりたい。（学生）
- 金田一先生の言葉の使い方に惹かれた。30年ほど前に金田一春彦先生のご講演も同じ場所で聞かせていただいた。同じ「美しい日本語」という言葉を聞いて少しびっくりしながらも感動した。（その他）

### 【人生を豊かにする読書】

- 読書だけではなく、幅広い物事に対する大切なことを教えていただいた。大事にしたい。（学校関係者）
- 心に留めておきたい言葉がたくさんあった。努力ではなく、楽しいから、好きだから、おもしろいからやれる。共感した。（学校関係者）
- 本を読むことが最近好きになった。小中高生のころは苦手で全く続かなかったが、今は読みたい本との出会いを大切に、好きだから続けているのだと気づかされた。（学校関係者）
- 分かりやすい内容で、自分がおもしろいと思うことを続ける大切さが伝わった。（教育委員会関係者）
- 人生を豊かにする話が聞けた。（一般）
- 努力至上主義世代。報われない努力も人生の一つの色彩だと思う。（一般）
- 「読書は自分の思考を深め、豊かにしてくれる」に共感した。色々な表現を知ることは、感動と自分も豊かにしてくれる。また何度聞いても怒らない。確かに!!（一般）
- 読書により、自分の考えが整理でき、世界が豊かになるとのお話共感した。まずは一冊をしっかりと読み込みたい。（一般）
- 大器免成、四十不或のお話、心に沁み入った。私も感ってばかりだが、100歳までと考えるとまだまだ新しいことができそう。好きなことを追求して頑張っていこうと思った。（一般）
- 人生で必要なことがたくさん詰まっていた。ユーモアやハツとする言葉が多く、腑に落ちた。（学生）
- 好きなことは人一倍上手になれるように練習をたくさんしていこうと思う。（学生）
- 「努力が無駄」という言葉がとても印象に残り、納得した。（学生）

### ②公開座談会



### 【「ちょっと本でも読んでみようかな」】

- 3人の登壇者の方々に自分の考えを述べていただき、大変刺激を受けた。読書に対する気持ちを熱くしていただいた。行動にうつしたいと思う。（学校関係者）
- （本に向かう）様々な「きっかけ」をつくること。そのアイデアをもらえた。（学校関係者）
- それぞれの立場から「本をちょっと手にする」話を熱く語っていただき、参考になった。学校の子供に薦めるヒントとして、また自分の読書の取りかかりにも参考になった。（学校関係者）
- 様々な立場の方の取組や考えを聞き、読書をあまり難しく考えず、気軽に気楽に取り組みたいと思った。（教育委員会関係者）

- 「ちょっと」の意味を「途中でやめてもいい、あらずじだけでも」と気軽に考えて良いと楽になった。(教育委員会関係者)
- 「本は最後まで読まなくてはいけない、というものではない」との言葉はとても心が楽になった。難しくてさわりだけ読んだ本がたくさんある。(一般)
- 「本は絶対に最後まで読まなくてはならない」という固定観念がずっと自分の中にあっただので、それが少し取れて気が楽になった。(一般)
- 「好き」の幅が広がりそうな話がいっぱい、聞きに来て本当に良かった。(一般)
- 登壇者それぞれの視点にふれることができ大変面白かった。電子書籍サイトを利用しがちになっていたが、本屋に足を伸ばそうと思った。(一般)
- 「読書」と聞くと自分は少しきついなというイメージがあるが、この話を聞いて読書のイメージが良いイメージに変わり、とてもタメになった。(学生)
- 本について立場の違う価値観の人の意見が聞けたのは良い機会だった。本に熱意のある人がこんなにいることに感動した。(学生)
- 「ちょっと本でも読んでみようかな」から始まる様々な話がおもしろかった。タイプの違う 3 人のそれぞれの価値観がとてもおもしろかった。(学生)

### 【本をおもしろがる「着眼点」】

- 本を読むとは「着眼点」を知ること。これが、私の心の中にとっても響いた。楽しむ読書も大切で、学ぶための読書も自分には大切だと思う。(学校関係者)
- 皆さんそれぞれの立場で、その人の言葉で本について語ってくださり、興味深く聞いた。嶋田さんの「好きなことからそれに関わる本も深掘りしていく」という考え方がなるほどと思った。(学校関係者)
- 好きなコンテンツから、本の世界に入っていくのが良いという言葉が印象に残った。(学校関係者)
- 「メディアとしての本」の考え方は、なるほどと思った。「本をおもしろがる」というテーマが良かった。(学校関係者)
- 嶋田さんの話は、教育とは異なる視点で本に親しんでもらうためにはどうしたら良いか、という工夫がたくさんあった。「おもしろがる方法」という点は教材研究にもつながると思う。(学校関係者)
- 生の声で「こんな本」と言ってくれると興味を持つ。そんな機会が必要なのかなと思った。(教育委員会関係者)
- 嶋田さんのエネルギーに圧倒された。楽しそうに語ってくれる人は新たな本好きを育てるのだと思った。(教育委員会関係者)
- 「読むのにエネルギーがいる」「最後まで読まない」という本に対するイメージを少し変えてみよう、と思った。(一般)
- 「本によって世界を広げる」という言葉から読書のおもしろさがわかった。好きなものから道しるべを見つけ出したい。(学生)

### 【本との出会い】

- 人それぞれによって、本との出会いで世界が広がっていくことが分かった。(教育委員会関係者)
- 自分の好きなことから世界が広がるという言葉が、すとんと落ちた。(教育委員会関係者)
- 一つのものからたくさんのことに広がっていくという言葉に「確かに」と共感できた。(学生)
- 気になった本は手に取ろうと思った。(学生)
- 人によって、本との出会いや感じ方が違うとわかっておもしろかった。(学生)
- 共育コミュニティの取組に興味を持った。本のある環境作りは大事。(学校関係者)
- 職種の違い 3 名の方のお話、とても魅力的で本をもっと読みたいと感じたし、本のプロがいらっしゃる場に行きたいと思った。(図書ボランティア・読書ボランティア)

- それぞれの方の熱い思いは伝わった。私たち大人にはどうかかわからないが、若い人に伝われば良い。身近に本がある環境はすごく大切だと思うので、やはり子供たちには学校図書館の整備が必要だと思う。(図書ボランティア・読書ボランティア)
- 自分の小・中・高校時代。学校の図書館の開放時間がとても少なく、利用したくても思うように利用できなかった記憶が強くある。夏休み中、読書感想文の宿題があっても図書室の利用は制限があり利用できなかった。そこから見直しができるれば、学生たちはもっと読書好きになるかもと思った。(一般)
- 本をおもしろがるというところで、小さい子供がデジタルに興味を持つのは、ごく当たり前ようになってきているが、その前に絵本に出会える機会があればと思った。(一般)
- 助野さんの本は、表紙がきれいで、本の実物があればと思った。嶋田さんぐらい学校図書館の司書さんも子供たちに熱くお勧めしたら本を読みそう。読んでみたいなあと思う子供、増えそう。(一般)

### 【座談会全般】

- 三者それぞれのお話が興味深く、本の魅力を知ることができた。(学校関係者)
- パネラーのお三方の思いが聞けて、みなさんそれぞれのお立場でアイデアを出し、日々試行錯誤されていることを感じた。(一般)
- 「嶋田さんの熱いメッセージ」「助野さんの創作の大変さ」「土田さんの多くの人とのつながりで読書と関わる」などが参考になった。笠野さん、取りまとめお疲れさまでした。(学校関係者)
- 4名が本好きであり、それぞれの角度から魅力を伝えてくれた。それぞれのお話をもっと聞きたかった。(その他)
- 本に対する熱が伝わり、私も熱くなった。私も何か活動できたら良いなと思う。(学生)
- 本に関わる方々でも立場が違っただけで、意見や考えが違うのが新鮮だった。良い刺激になった。(学生)
- 本に携わっている方たちでも、人に本を手にとってもらうのにどうするか悩んでいるのだから、自分がわからないのは当たり前だと思った。読書に限らずだが、与える側と受け取る側の両方にある程度の熱量がないと成立しないのだと改めて思った。(学校関係者)
- 失礼ながら、うまくまとまらない、とりとめのない話になりそうな予感がしたが、良い意味で予想が裏切られた。(教育委員会関係者)
- 三者三様の登壇者で、ファシリテーターも回すのが大変そうだった。個人的には、おもしろい組み合わせだと思いながら聞いていたが、あのような3人はどこのコミュニティにもいると思うので、そのような人をつなげる核になりやすいのは、学校や公民館なのかと考えた。(教育委員会関係者)
- テーマをもっと絞って討論すれば良かった。土田さんの共育コミュニティでの読書推進活動や子供たちへの働きかけは素晴らしい。(一般)
- 様々な本にまつわる話が聞けて楽しかった。座談会も良いが、たとえば助野さんの絵本の朗読や政策の話をじっくり聞くなど、ミニ講演会の形でも聞きたかった。(学校関係者)
- 教材、キャンバス、商品。本をどう捉えているのかの三者三様の考えを引き出していただき、横のつながりで意見の交流が聞きたかった。(学校関係者)

## 4 「ちょっと本でも読んでみようかな」と思うには、どのようなしかけが大切だと考えますか。ご意見をお聞かせください。

### 【本と出会う環境】

- 子供たちのいつも手の届くところに、大好きな絵本を、素敵な本を、育ち・季節・興味に合った絵本を選んで環境設定していきたい。(幼・保・こども園関係者)
- おもしろさを伝えられる工夫、SNSの活用によって本と出会う入口を開く。古典のおもしろさは学校でも伝えていきたい。(学校関係者)

- 「ちょっと本でも」のハードルを下げるにはどうしたら良いか、教員としていつも考えている。本が常に近くにあるという環境、行きやすく居心地の良い図書館や本屋さん、そして本に関わり、紹介する人（司書や教員、親、保護者）が必要だと思う。（学校関係者）
- 本そのものの魅力は本を読まなければわからない。だから、「本を読みたい」という入口（最初の一步）をつくるのが大切だと思う。どれだけ、身近に感じるか、自分の興味のあることと本がつながっているかを知ることができる環境づくりが必要かと思う。（教育委員会関係者）
- 年代を問わず、本につなぐ入口をどう提供するか。個人的には家で子供に読み聞かせをしている。毎日、仕事帰りに3冊読めと言われて、クタクタで正直辛いところもある。家庭教育の根気も大事。それを支える家庭教育支援も必須だろう。（教育委員会関係者）
- 本屋によるフリーペーパーや、手に取ってみたいくなるPOPがあれば、自分では手に取らなかった本ともつながりやすい。対面でゆるく参加できるビブリオバトルのような読書会などで、誰かの本の好きポイントの語りを聞くのも良い。本屋や図書館主催の読書会があれば、たくさん周知してほしい。（一般）
- この本の「おもしろさはこれだ」「どこにあるのか」のポイント紹介がもっとあれば、多くある本の中からどの本を選択するのかを決める助けになると思う。パフェのように、楽しみを知る、教えてもらうことはありがたい。（一般）
- 自分の好きなことについての探求心と、本がたくさんある環境が近くにあることが大切。（学生）
- 本を並べておくこと、大人が楽しそうに読むこと。（公民館関係者）
- 大人が活字にふれる機会の創出が大切だと考える。大人ができないことを子供ができるはずがない。（教育委員会関係者）

### 【人とのつながり】

- 子供のころからの読み聞かせを大切にすること。温かいやりとりは心に残る。（幼・保・こども園関係者）
- 自分自身と本との出会いは、親から与えられて読み始めたこと。子供のころに周囲に本がある環境、親が本を好きだということも大切。親世代が本を読み、子育ての中で本を与えるという流れができればいい。（学校関係者）
- 両親や学校の先生、親しい大人の人が楽しそうに本を読んでいると、子供たちは、最初は真似から本を読みはじめ、次第に本の楽しさがわかってくると思う。私もそうだった。本は人生を豊かにしてくれる。スマホより本を読む方が楽しい。（一般）
- 本と出会う機会。身近な人との会話から本の話が出たら良い。（学校関係者）
- 人に「この本おもしろいよ」と薦められると読んでみようかなと思う。友達と本のことについて話をする機会を増やすことが、本を読む人を増やすことにつながると思う。おもしろい本のことについて話ができる素敵な関係をつくることも大切なのかなと思う。（学校関係者）
- 有名・無名・いろんな人が一言コメントで本の良さを伝える。「入口は小さく入れば深い」本の奥行きを知る。入ってみることが大切だと考える。（教育委員会関係者）
- 金田一先生のお話を聞くというのは、私にとって一つのきっかけとなった。また、土田さんがおっしゃったように、人から影響を受けて本を読むということはあると思う。（公民館関係者）
- 子供向けに学校へ本のプロ（書店、作家、出版社、司書）が来てもらい、話してもらおう。大人向けにも図書館や本屋さんでプロの人のイベントや読書会をしてほしい。（図書ボランティア・読書ボランティア）

### 【意識を変える】

- 「答え」ではなく「考えること」「調べること」「もっと知りたい」と考える思考をつくっていくことだと思う。（学校関係者）
- 「ちょっと」という気軽な気持ちで本を読んでもいい、途中で辞めてもいい、という入口の敷居の低さが良いのではと思う。（学校関係者）

- 「まずは自分が好きなところを読んでみる」「おもしろいところを、人と語り合う」「おもしろいところだけでも読んでみる」など、今は本のハードルがすごく上がっているので、もっと敷居を下げることが大切。（学校関係者）
- 「読まなきゃいけない」とか、「読まされる」とかというような状況をつくらないことだと思う。身近に本を置きつつ、読みたくない人にはそっとしておいてあげてほしいと思う。（学校関係者）
- 「読書＝勉強」「読書する人＝かしこい人」のようなお高くとまったイメージから、もう少し敷居を下げないといけないのかなと思う。本を読まなさそうなイメージの人が集まる場で、本の面白さ、読書の楽しさをアピールすることを我慢強くやる必要があると思う。（図書館関係者）
- 読書に対してのイメージを少しでも良くすることが大切だと思う。（学生）
- 多くの人にはもしかしたら、「本を読む」というイメージを、書を読む・活字を見る・読書感想文などの、国語教育的要素を重ねて捉えているのではないかと思う。少なくとも、自分はそう捉えていた。金田一先生も嶋田さんもすけのさんも、地図帳や時刻表、図鑑や雑誌も含めて本を楽しんでおられる。「読書・本を読む」ということが、もっと幅広く、自由なものだというイメージに変わっていくことが大事。（一般）
- 今までの「読書は学び、成長するためのもの」という考え方を改めることが大切。（一般）
- 読む側がおもしろがるのが大切だと思う。日常で疑問を持つこと、その答えを本で探す。知りたいことはすべて本に書いてあるということを読者が知ると思う。（一般）
- 堅苦しい内容だけでなく、本人が興味を持った内容の本について、「読む意味がない」といった偏見や先入観をまわりから植えつけないことが大切。（一般）
- 本を読まない人は、本を読むより大切なこと、優先すべきことがあるからこそ読まない人がほとんどだ。だから、本は読む人は読むし、読まない人は読まない。そう割り切って、読む人が楽しめるしかけを増やすといいと思う。（学生）
- 「まずは本を」ではなく、既に興味のある分野を掘り下げるために「本」を活用すること。（その他）

「身近に本のある生活」  
について、  
一緒に考えてみませんか？

「ちょっと本でも  
読んでみようかな」  
のために

令和4年度 読書推進フォーラム

2023.1.29日  
時間:13:30~16:30  
会場:和歌山県民文化会館  
大ホール

講演 金田一 秀穂氏  
(講師:タカオカ莉原氏)  
演題「本は優しい」